各位

全５ページ

登録速報（２０２１－０５８）

２０２１年１月２７日

クミアイ化学工業株式会社

企 画 普 及 部 普 及 課

# 登　録　速　報

下記の通り適用拡大登録となりましたので、ご連絡します。

適用拡大登録年月日：２０２１年１月２７日

記

１　農薬の登録番号及び名称

登録番号：第２４３８８号

名　　称：クミアイロイヤント乳剤

２　変更の内容

農薬登録申請書第６項に以下の内容を追加・変更し、変更後のとおりとする。

（１）作物名「直播水稲」を追加する。

（２）作物名「移植水稲」の適用雑草名に「アゼガヤ」と「オモダカ」を追加する。

（３）作物名「移植水稲」の使用方法に「湛水散布」を追加する。

（変更後）

<table>
<tr><th rowspan="2">作物名</th><th rowspan="2">適用雑草名</th><th rowspan="2">使用時期</th><th colspan="2">使用量</th><th rowspan="2">本剤の使用回数</th><th rowspan="2">使用方法</th></tr>
<tr><th>薬量</th><th>希釈水量</th></tr>
<tr><td rowspan="2">移植水稲</td><td>一年生広葉雑草<br>及び<br>ノビエ<br>マツバイ<br>ミズガヤツリ<br>ウリカワ<br>セリ</td><td rowspan="2">移植後２０日～<br>ノビエ５葉期<br>ただし、収穫４５日前まで</td><td rowspan="3">２００<br>mL/10a</td><td rowspan="3">１００<br>L/10a</td><td rowspan="3">２回<br>以内</td><td>落水散布、ごく浅く湛水して散布又は湛水散布</td></tr>
<tr><td>アゼガヤ<br>オモダカ</td><td>落水散布又はごく浅く湛水して散布</td></tr>
<tr><td>直播水稲</td><td>一年生広葉雑草<br>及び<br>ノビエ<br>ミズガヤツリ<br>ウリカワ<br>セリ</td><td>稲３葉期～<br>ノビエ５葉期<br>ただし、収穫４５日前まで</td><td>乾田・落水状態で雑草茎葉散布又は全面散布</td></tr>
</table>

| フロルピラウキシフェンベンジルを含む農薬の総使用回数 |
| --- |
| ３回以内 |

３　当該変更に伴い、農薬登録申請書の記載事項に変更を生ずるときは、その旨及び内容

農薬登録申請書第７項（４）及び（７）を以下のとおり変更し、（８）として以下の注意事項を追加し、以降を繰り下げ、別紙のとおりとする。

（変更後）

（４）散布する際は、薬液が雑草に十分かかるような状態にして、水の出入りをとめ、まきむらのないように均一に散布すること。

（７）多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ミズガヤツリは草丈 25cm まで、ウリカワは６葉期まで、セリは増殖期まで、オモダカは矢じり葉３葉期まで、また、アゼガヤ（一年生雑草）は草丈 30cm までに散布すること。

（８）ホタルイ、クログワイ、コウキヤガラには効果が低いので、それら雑草が混在する圃場ではそれらに有効な剤と組み合わせて使用すること。

別紙

農薬登録申請書第７項

【変更後】

（１）使用量にあわせて薬液を調製し、使いきること。

（２）散布液は使用当日に調製すること。

（３）前処理剤との体系で使用し、雑草の発生状況をよく確認し、時期を失しないように適期に散布すること。

（４）散布する際は、薬液が雑草に十分かかるような状態にして、水の出入りをとめ、まきむらのないように均一に散布すること。

（５）散布は噴霧状に行い、薬液が雑草全体によくかかるようにすること。

（６）散布後 7 日間は降雨の有無にかかわらず落水、かけ流しはしないこと。

（７）多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ミズガヤツリは草丈 25cm まで、ウリカワは６葉期まで、セリは増殖期まで、オモダカは矢じり葉３葉期まで、また、アゼガヤ（一年生雑草）は草丈 30cm までに散布すること。

（８）ホタルイ、クログワイ、コウキヤガラには効果が低いので、それら雑草が混在する圃場ではそれらに有効な剤と組み合わせて使用すること。

（９）薬害のおそれがあるので重複散布をさけること。

(10) 薬害を生じるおそれがあるので、周辺作物にかからないよう十分注意すること。

(11) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。

①砂質土壌の水田および漏水田（減水深２cm/日以上）

②軟弱な苗を移植した水田

③極端な浅植の水田および浮き苗の多い水田

④稲の根が露出している水田

(12) 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。

(13) 本剤散布後の田面水を他作物に灌水しないこと。

(14) 散布機、ホース、ノズル、タンク等の器具は、使用後速やかに十分に洗浄し、洗浄液は河川等に流さず、環境に影響をあたえないように適切に処理してください。

(15) 空瓶等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。

（16）本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないよう注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

以上